

平成24年度第1回リニモ沿線地域づくり会議 会議概要

(文責：事務局)

日 時：平成24年8月21日（火）午後2時～4時

場 所：愛・地球博記念公園 地球市民交流センター 体験学習室

出席者：委員9名（代理含む）、事務局（愛知県地域振興部長、沿線市担当課長 他）

(開会)

1 あいさつ

○愛知県地域振興部長

お忙しい中、平成24年度第1回リニモ沿線地域づくり会議に出席いただいたことについて、深く感謝申し上げます。

まず、リニモの利用状況については、沿線の大学をはじめ、地域の皆様のご協力をいただき、着実に毎年利用者数を伸ばしている。県としても、沿線市の皆様と連携し、学生の利用が減る夏休みにイベントを開催するなど、沿線施設へ多くのお客様においでいただくことで、リニモの利用促進に努めている。

また、沿線の魅力をさらに高めるため、沿線の県施設の整備も進めている。モリコロパークでは、この4月にサイクリングロードなどがオープンし、大変な人気と聞いている。また、陶磁資料館南駅に隣接する「知の拠点」では、昨年度の「あいち産業科学技術総合センター」に引き続き、今年度、「シンクロトン光利用施設」が供用開始する予定である。

さらに、まちづくりの面では、各市のご努力により、市街地開発を進めていただいているが、県としても、開発に係る法手続きが円滑に進むよう調整を図るなど、全庁をあげてバックアップしてまいりたい。

今後、この地域がさらに発展していくためには、この地域の特色を活かし、他の地域との差別化を図るなど、戦略的な取組も必要になってくると考えている。

このため、本日の会議では、リニモ沿線の地域づくりに向けた取組についてご報告するとともに、様々な分野でご活躍の委員の皆様から、今後の地域発展に向けた戦略についてご提言をたまわり、また、ご議論いただくこととしている。

今後の地域づくりに活かすことができる、建設的な議論をいただくようお願い申し上げ、私からのあいさつとさせていただきます。

2 委員長の選出

○事務局（愛知県地域政策課）

名古屋学院大学の木村光伸委員および株式会社ビーコネクトの前田裕介委員は、ご本人の意向により、このたび委員を辞任されることとなった。

また、今回から、愛知淑徳大学メディアプロデュース学部准教授の清水裕二様に委員に就任いただいた。清水様は、建築がご専門であり、沿線のまちづくりにご助言をいただくため、ご就任いただいた。

○清水委員

愛知淑徳大学はリニモの沿線にあるとはいいがたいが、リニモの近隣の大学である。この度はこのような場にお招きいただき、大変光栄に思っている。また、この地域のことを真剣に考えさせていただく機会をいただき、感謝申し上げます。

○事務局（愛知県地域政策課）

委員長の選出については、昨年度同様、瀬口委員にお願いしたいと考えている。

（拍手）

それでは、引き続き瀬口委員に委員長をお願いすることとしたい。

3 議題

（1）リニモ沿線の地域づくりに向けた取組について

○事務局から資料1～7の説明。

（意見なし）

（2）意見交換（地域のブランド力を高めるために）

○事務局から資料8～9の説明。

【委員・事務局からの主な発言（地域のブランド力を高めるために）】

○委員

今年、万博の時に小学校6年生であった子供が大学1年生で入学してきていることに、非常に驚いた。資料3（リニモ沿線地域づくり活動支援事業）で説明のあった、合同大学祭に関わっている学生も、万博の経験を非常に強く持っており、万博を共通の記憶として持っている学生達が大学生になってきていることを実感している。

リニモは、40%を超える利用者が通学定期を利用しており、大学生の力というのは、この沿線の地域づくりにとって大きな要素である。しかし、リニモ沿線の大学に通学していても、万博のことが感じられないのが現実である。県立大学は、愛・地球博記念公園からリニモを挟んですぐ向かいにあるが、4年間この公園に来たことがない学生が8割程もおり、せっかくの万博の記憶が活かされておらず、もったいないことであると思う。

1点目の提案として、子供の時に強く万博の記憶が印象付けられた学生が増えている状況の中で、これをもう一度活かす取組みを実施することを挙げたい。

2点目は、リニモ沿線地域の豊かな緑が、景観だけではないということをアピールすることである。私は、学生と共に、この長久手で農業に取り組んでいるいくつかの団体に関わらせていただいている。こうした団体は長久手古戦場駅・芸大通駅あたりから公園西駅までの間にコスモスを植えることや、農場の整備に非常に熱心に取り組んでいる。このように、地域にある緑が、単なる農地ではなく、市民が参加し、学生もボランティアで関わっている農地であることがより知られたら、地域のブランド力を高める一助となるのではないだろうか。

また、私の県外の親戚なども、子供の自由研究のためにリニア鉄道館には来るが、リニモには乗りに来ない。特に関東、関西へは、リニモ沿線地域が観光地であることのアピールが全く伝わっていないと感じる。8月や1月など、学生が休みの期間は、リニモの乗客は観光

客が頼りであるので、陶磁資料館、トヨタ博物館、愛・地球博記念公園などの沿線施設をセットにし、リニモに乗って沿線の観光地を回れるパッケージを作ることが、地域のブランド力につながるのではないだろうか。

○委員

日本で万博が開催されたのは、大阪の他に愛知だけということもあり、やはり、地域のブランド力を高めるために、万博を開催した経験をアピールすべきである。

愛知工業大学は、万博にも協力したが、万博終了後も様々なイベントを開催しており、今年の6月にはホテル鑑賞会を大学の裏で開催した。200人以上の親子連れの方が集まり、自然に触れることが非常に重要であり、このような機会を設けることも教育の観点からの役目だと実感した。

夏休みには丸ごと体験ワールドを、秋の紅葉の時期にはフォトコンテストを開催しており、それらは5,000人～6,000人集まる。こうしたイベント開催にあたって、リニモ会社や愛知環状鉄道の方などに支援をいただくと、お互いに有益ではないかと思う。

風景の話では、田んぼアートなどを実施しても良いのではないだろうか。リニモに乗っていると感じるが、外を見ても楽しい景色がないので、楽しめるものがあれば良いと考えた。

また、ビアガーデンが愛・地球博記念公園のモリコロ夏まつりの時に開催されているが、それを3ヶ月くらい続けて開催することや、ご当地グルメを検討しても面白いのではないか。

○委員長

大阪万博跡地には岡本太郎氏の太陽の塔があり、それを見れば万博を思い出す。愛知万博は、そういった万博を彷彿とさせるものがないのかもしれない。愛知万博の遺産を活用することが、一つのブランド力の向上につながると思うので、検討できると良い。

○委員

リニモ沿線という一つの軸で捉えると、この地域には豊富な資源があることを再認識した。しかし、豊富な資源が断片的にあることはわかるが、つながっていない気がする。そうした個々の資源をリニモでつなげるという意識が、景観やまちづくりの中に見えてくると良いと考えた。

例えばトヨタ中央研究所の存在は、最先端のテクノロジーを使った、スマートグリッドや再生可能エネルギーの活用など、愛・地球博で描いた未来の街を、ここでなら実現できるという夢を感じさせてくれる。

また、愛知県立芸術大学は、国内屈指の現代美術の作家で、非常に重要な人材を多数輩出し、全国的にも名前が知られているので、県立芸術大学の学生をまちづくりに関与させる取組などを実施すべきである。例えば茨城県取手市では、東京芸術大学の先端拠点の取組みとして、毎年イベントを開き、地域の中に入り込んで制作を実施している。そういった形で、地域の中にアートが入り込み、コミュニティの一つの核となるまちづくりをしたら、より魅力的な街になると思う。さらに、駅前話だけにとどまらず、県立芸術大学以外でも、大学生がコミュニティ形成に関与していけるような取組が持続的なパターンになると面白いことができると考えた。

他に、農業は非常に重要で、一般の人に関心を持っているコンテンツである。その先端である農業総合試験場を、より一般の人に開いていくことや、まちづくりにも反映させると良いのではないか。資料9（公園西駅周辺環境配慮型まちづくり基本構想 概要版）の説明の中で、菜園付の住宅といった提案があったが、農業都市を打ち出すくらいの先端的な提案をしても良いと思う。

○委員長

公園西駅では普通の区画整理をするのではなく、コンペをして、世界の著名建築家に提案させたら、課題もあるが面白いかもしれない。また、もう少し県立大学や県立芸術大学がまちづくりに関与していけると良い。

○委員

本大学の職員に聞いたところ、愛・地球博記念公園の経営を県から民間へ委託してはどうかという意見があった。

愛・地球博記念公園には大きな観覧車があるが、他に様々な乗り物があれば、若いカップルなどを呼び込めるのではないかと思う。

その他にも、三重県に鈴鹿サーキットがあるが、トヨタサーキットをこの地に作れないかという意見や、岐阜県土岐市のアウトレットモールや三重県のジャズドリーム長島のような商業施設をこの地に誘致できないかという意見もあった。

また、今日、モリコロパークの案内図を見て、園内に花畑などがあることがわかったが、これが皆様に伝わっていないと思う。そこで、四季折々の花がモリコロパークで見られるということ、年配の方などに広報すれば、より多くの人々に訪れていただけたらと思う。

○委員長

幅広い年齢層を沿線地域に呼び込めるよう、公園の管理を一部でも民営化して、もう少しインパクトのある取組、例えばアウトレットモールのような施設を作れたら良いということは、おっしゃる通りだと思う。こうしたことをうまく織り交ぜながら、先ほど意見にあった、万博の遺産を取り込んでいくことにつながれたら良い。

○委員

本大学の若い職員から聞いた意見の中で、比較的实现できそうなものについてお話ししたい。

アピタやトヨタ博物館などの沿線施設とリニモをコラボレーションさせてはどうか。例えば、利用者に各施設で使える割引クーポンや、オリジナルグッズを配布したり、夏休み期間中には、リニモ乗り放題チケットを販売し、各施設の利用率のアップを図れたら良いと思う。また、特産物の販売や、リニモの整備工場を見学する機会があったら面白い。

さらに、リニモ沿線には大学が11あり、若者の文化を受け入れる土壌があるかと思う。従って、例えばリニモのラッピング列車を活用した、アニメーションとのコラボによるまちおこしも良いのではないか。こうしたことで話題性を呼んでいる地区が、ホームページを見ると全国にいろいろある。さらに、名古屋で活動しているSKE48など、ローカルアイドルと

のコラボをすることも、誘客につながるのではないかと思います。

○委員長

リニモ会社の実施するとなると、いくぶん障害のある提案もあるかもしれないが、徐々に実施できたら良いと思う。

○委員

用地を取得・加工し、住宅を建築し、お客様に家を売るという、ディベロッパーとしての立場からの話をさせていただきたい。

まず、リニモ沿線は非常に素晴らしい開発ラインであると思う。博物館、研究施設等があり、学校も多く、商業施設も増える、というこのリニモ沿線地域は、明らかに開発すべきラインである。我々ディベロッパーは、例えば、60坪で、300㎡ぐらいの区割りで、お客様は買えるのだろうかということを考えるため、ある程度コストのことを考慮した区画整理事業の実施をお願いしたいと考えている。

お客様としては30歳から40歳までの人々がターゲットである。全国的な人口を見ると、子供たちが1歳、2歳の世代は、現在100万人近くいる。しかし、10年、20年先では、より人口が減少し、都心回帰の傾向になる可能性もあり、今この時期を逃すと、この沿線エリアの購入層はいなくなっていくと考えられる。開発をするのであれば、急いで開発し、人を貼り付ける必要がある。そうでなければ、リニモそのものが、ピーチライナーの二の舞になる恐れがある。我々としてもピーチライナーのようにはしたくない思いがあるので、もう少しスピード感を持って、行政で開発を誘導していただきたい。

しかし、無秩序に開発したいということではなく、行政と民間ディベロッパーサイドとリズムのあった開発方針を策定できたら良い。

○委員長

ディベロッパーの立場からは、スピーディーに開発が進むことを希望し、行政と民間ディベロッパーのリズムを合わせた方がいいという意見をいただいた。

○委員

資料8のリニモ沿線地域整備概要図を見て、市街地開発は着実に進んできていると率直に感じた。しかし、リニモの駅周辺は市街化調整区域になっている。宅地開発をする上で調整区域というものは、非常に規制があるため、その規制を緩和するような条例を考えていただけたら良いと思う。

住宅開発を促進する上で重要な点は、一つは駅への近接性、二つ目は商業施設への近接性、三つ目は小中学校への近接性、四つ目は公園への近接性、五つ目は、東日本大震災の関係で高台という観点である。その点でも、リニモ沿線地域の長久手古戦場駅前のイオンのオープンは、非常に魅力であるし、高台という観点からも評価をいただいている。

駅近に商業ができて、その周りに住宅が貼り付いていくことは、一つの理想系である。まずは、駅周辺の早期の市街化編入と宅地整備をお願いしたい。

○委員長

ピーチライナーは、桃花台ニュータウンと小牧駅の間に住宅などがなかったことが、非常に大きな欠点であった。リニモ沿線地域には各種資源があることが強みとなる。資料8（リニモ沿線地域整備概要図）を見ると、開発は着実に進んでいるように見えるが、この地域の環境の良さをなくしてはいけない。環境などの資源を資産化して、ブランド化することにより、購買力のある方に来ていただき、醸成した住宅地を造ることができる。従って、地域のブランド化というのは、ディベロッパーにとっても有効なことであると思う。

また、都心回帰といっても、皆が都心に住み、都心の大学に行きたいわけではない。やはり郊外に住み、郊外の緑のあるキャンパスに行きたいという層は必ずいる。そうした意味でも、やはり複眼的なまちづくりを進めていく必要がある。

○委員

この地域はあらゆる魅力があり、かえってブランドイメージを作りにくいと思う。その中で、歴史のもの語り性というのは大事な要素であると思う。

長久手市の歴史というと、小牧・長久手の戦いがすぐ思い浮かぶが、昔こういう戦があったというだけで終わるのではなく、なぜこの地で大規模な合戦があり、家康、秀吉が戦ったのかを考えると、推測だが、大きな軍隊が動く街道があったからだと考え、調べてみた。

元禄14年・江戸時代の中期から明治初年までの絵地図を7種類調べた。この7種類の地図に、当時別の国であった、三河と尾張をつなぐ10本の道が出てくる。時代により、道の流行廃りがあるので、10本の道がその7種類の地図に全て出てくるわけではなく、7種類の地図全てに現れる街道は、3本しかない。1本は当然東海道で、もう1本は飯田街道である。そして、もう1本が、長久手の熊張と八草を繋ぐ道である。推測だが、この道は非常に重要な街道として、何百年も前からあり、交流のルートがあったから、ここで戦が起こったのではないかと思う。そういった歴史もの語り性がこの地域にあることが、一つ地域ブランドイメージ作りになると考えた。

もう一つのブランドイメージで大事なものは、環境、緑だと思う。この地域の自然が豊かということは目で見てわかるが、もう少し広い範囲で、緑の軸線で広がっているというイメージがあった方が、ブランドイメージ作りになると思う。

土地の勾配と土地の自然の状況で関係をデータ化し、マップに落とすという研究をやっておられる、名古屋大学の清水裕之先生によると、境川隣接ラインという一つの緑のラインが残っており、もう一つ、それから分離して、知多半島の方へいく尾根筋のラインが分岐して続いているとのことである。こうした緑を大切に育て、また、復活させるような取組が必要だと清水先生はおっしゃっている。

この南北の緑・環境の軸線と、東西の交流の歴史もの語り性の軸線とで、この地域のブランドイメージ作りができないか考えた。

○委員長

私も策定委員になっていたが、30年ぐらい前、（現在の中部地方整備局が）中部地方建設局であった当時、東海環状都市帯構想というものを作った。その中に犬山の木曾三川公園から、知多半島まで緑でつなげていくという考えがあった。この考えは、同じく私が策定委員

となっており、昔、存在した愛知県の緑のマスタープランの中にも大まかに入っている。愛知県の万博の時に唱えられた里山ラインは、愛知県の犬山からずっと豊田、岡崎の方へ続いていくので、緑の軸線の交差というのは、まさにそれであると思う。

小牧・長久手の戦いもそうであるが、地域の歴史や環境というものは、きちんと交差する部分がある。郷土史だけの話にしてしまうと、長久手市や日進市だけの話になってしまうが、広域的な視点を取り入れることで、地域のブランド力が高まる。この名古屋東部地域全体の中での位置付けをすることも、愛知県の中では非常に重要な意味を持つと思う。

○委員（代理発言：事務局）

土居委員からお預かりした意見を事務局が代理で発言させていただく。

土居委員からは、「この沿線地域で市民参加型のお祭りを開催してはどうか」というご提言をいただいた。

長久手市では長久手古戦場さくらまつりが毎年開催されている。しかし、長久手古戦場さくらまつりは、市民が主に見る祭りであり、市民が参加する祭りがこの地域にないのではないかと。例えば豊田市には豊田おいでんまつりが、みよし市には三好いいじゃんまつりがあり、市民が参加し、踊ったり歌ったりすることで、毎年賑わっている。長久手市には学校も多いので、モリコロパークで7月か8月にこのような市民参加型のお祭りを開催すれば、多くの学生グループが参加してくれるのではないかと思う。また、この地域には幼稚園児から高齢者の方まで幅広い世代の方々が多くいるので、お祭りのテーマ曲のようなものを一曲作り、参加者各人が好きなコスチュームや振り付けで、自由に踊る「よさこい」のようなことができれば面白いのではないかと思う。また、リニモ駅ごとに踊りのチームを分けることも考えられる。お祭りを毎年開催し、知名度も上がれば、地域のブランド力を高めることにつながると考えた。

以上、このような意見をいただいた。

○オブザーバー

本日はいろいろなご意見をいただき、感謝申し上げます。リニモに関する提言について、お話ししたい。

沿線施設とリニモのコラボ企画を実施したらどうかというご意見について、沿線施設と協力した利用料金の割引というものは従来から行っており、特に夏休み期間は、モリコロパークのスケート場や温水プールとタイアップをし、一日乗車券を利用して来場した方には、入園料を半額にする取組を行っている。乗り放題チケットについても、リニモ一日乗車券というものがあり、ご利用いただいているところである。また、整備工場の見学についても、愛知県の様々なイベントで利用いただき、その中のメニューの一つに工場見学があり、非常に好評を博しているところである。

ラッピング事業も、ここ数年、景気が後退していることから、今のところ実施していないが、ラッピングメニューも個々の事業の中にはあり、既に実施をしているところである。

ローカルアイドルとのコラボも、OS☆Uとタイアップした企画を愛知県の方で検討している。また、鉄道むすめというアニメを活用した取組についても検討しており、年明けには実現する見込みである。ご提言いただいた内容については微力ながら、それなりに実施して

いるところである。

また、リニアが注目される時代なので、リニモを活かして、観光などの魅力を向上してはどうかという意見もいただいた。確かに、車両基地見学を行っているように、リニモ自体が観光資源という面があり、大人の工場見学というものが現在流行っていることもあるので、流行を活かしながら、リニモの取組を進めていきたいと思っている。

ブランド化ということで、様々なご提言をいただいたが、リニモ自体をブランド化できるように、様々な試みをしながら努力してまいりたい。

○委員長

資料1(リニモ利用者数の推移)にあるとおり、リニモの定期外利用乗降客数は、定期利用者数に比べ毎年の伸びが非常に低い。定期外の乗客を1日3,000人ぐらいに伸ばせると良いと思う。皆様のアイデアを活かして努力していただきたい。

○オブザーバー

愛知環状鉄道は昭和63年1月に開業し、当時年間400万人程度のお客様を輸送していたが、25年弱をかけて1,450万人ほどに成長した。

利用促進については、豊田スタジアムでサッカーや婚活イベントが開かれ、年間目標として、入場者が1,200万人になるよう努力していただいている。

先ほど、お祭りの話が土居委員からもあったが、豊田のおいでん祭り・花火で、だいたい1日1万人強、岡崎花火大会で1万人弱のお客様に乗車いただいている。このような大きなイベントがあれば、多くのお客様に乗車していただけるとのことで、会社としても、県の観光協会を通じてイベントのPRを行っている。そうしたこともあり、定期・定期外の乗客の割合も半分ぐらいとなっている。

また、昨年度の10月から愛知環状鉄道連絡協議会の協賛でウォーキングイベントを開催しており、お客様には、歴史的資源や産業的資源、景観的資源があるところを散策していただき、かつ鉄道を利用していただいている。沿線各市に2コースもしくは、1コースの常設のウォーキングコースを設定している。

愛知環状鉄道沿線のまちづくりについては、駅周辺などで開発が少しずつ進んでいる状況である。昨年度、県の方で愛知環状鉄道沿線地域活性化ビジョンを作っていたので、これに沿って沿線のまちづくりが進められると考えている。

○委員長

愛知環状鉄道は定期外の利用者が非常に多いことがわかった。定期利用客と定期外利用客の比率が、50:50だとすると、イベントが非常に効果を出していることがわかる。リニモの場合は、定期外利用客の割合が1割ぐらいであるので、定期利用客が圧倒的に多い。鉄道同士の相互乗り換えの関係や、また、リニモ沿線で開かれるイベントが小さいことも原因としてあると思うので、そのあたりも改善の余地があるかもしれない。

○オブザーバー

名鉄バスは、現在地下鉄、リニモを利用する学生を各大学へとお送りする役割を担当させ

ていただいている。愛知学院大学、愛知工業大学、中西学園、名古屋商科大学に通う非常に多くの学生の方に利用していただき、弊社にとって、大変ありがたいと思っている。

現在この地区で多くの開発が行われているとのことで、弊社も注目している。やはり商業施設が活性化し、宅地化が進めば、我々にとっても非常に有益なお客様が来ていただけるので、大変期待している。今回、様々な活性化策についてお聞きしたが、是非実現をしていただき、多くのお客様を集客し、多くの方に住んでいただける地区にさせていただけたらと思う。今後も、各地とリニモを結ぶフィーダーの役割としてご協力をさせていただきたい。

○事務局

委員の皆様からは、学生をはじめ皆様に地域のコミュニティ形成に関わっていただくことや、万博の記憶を活かすこと、スピード感を持った開発が必要であることなど、重要なご提言を多くいただいた。事務局としても素晴らしい提案だと思いながらお聞きしていたが、具体化するための方策をどうすべきか検討したい。今後、沿線市の皆様とも相談しながら、また、瀬口委員長を始め、個別の委員の皆様にも個別にご相談にあがり、お知恵を借りながら、取組を進めてまいりたい。本日、いただいたご提言を検討し、対応について後日報告させていただきたいと考えている。

4 その他

次回のリニモ沿線地域づくり会議は、来年3月頃に開催する予定。

○事務局（愛知県地域政策課）

本日は瀬口委員長を始め、委員の皆様方、オブザーバーの皆様方、関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

行政としては、どうしてもリニモの当面の経営状況など、目先のことにこだわるが多く、単純な利用客増についてのみ考えてしまいがちである。その中で今日は、委員の皆様から、この地域の魅力や素晴らしい資源があるのだという力強いご提言を多くいただき、本当に感謝したい。本日のご提言を得て、私どもも一生懸命頑張らせていただきたいと思いますので、今後ともご支援のほどをよろしくお願ひしたい。

(閉会)